竜丘公民館報

発行人 木下 右治
編集人 編集部
印刷所 信州印刷KK

大飯田田園都市成立か

一市一町五ケ村田園都市合併案崩れる。飯田市主唱者となり、新たに一市十ケ村案を提案し、これが具体化しようとしている。

去る七月二十日鼎町、伊賀良、松尾、龍丘、上郷、座光寺村の一町五ケ村は、十一ケ条の合併基本条項をつくって、飯田市に合併を申し込んだところ、七月二十五日に飯田市はこの基本条項を全部認承して合併に応じようとした。

ところが一町五ケ村の最も中心的な役割を務めていた鼎町が、突如不参加を表明したので、せっかく成立しそうになった一市一町五ケ村の田園都市計画は、最後のどたん場へ行って画餅に帰してしまった。

そこで今度は、飯田市が非常に積極的にのり出し、鼎町を除いた飯田市周辺の十ケ村（伊賀良、山本、松尾、龍丘、川路、三穂、上郷、座光寺、市田、山吹）を招いて、去る八月三日懇談会を開き、大飯田田園都市建設を提唱した。

大方の村はこの趣旨に賛成し、各自村に帰って村民の意向をただし、八月十日に賛成村が会合し、あくまでその成立を期することとなった。

わが龍丘村は六日に合併研究委員会を開いたところ、この趣旨に賛成することとなり、八月八日に各部落に於て、区民の意向をただしたところ、大方の賛成を得たので、八月十日の関係村合併会議にのぞむ筈である。（八月九日現在）

合併のあゆみ

月日

611○鼎正副議長が伊賀良正副議長を伴い来村、一市一町五ケ村合併案を提唱
○村議会協議会

618第二回一町五ケ村合併協議会

622村議会協議会

627一町五ケ村合併小委員会
合併基本条項の原案を作る

71○村議会協議会
○本村合併対策研究会
基本条項を審議す

72一町五ケ村小委員会

79一町五ケ村村長助役会

710一町五ケ村合併協議会
基本条項の成案をつくる

713本村合併対策研究会
基本条項を認める

716—18五部落懇談会
基本条項を認める

720一町五ケ村合併協議会

723伊賀良村議長来村
川路村区長（八名）来村

725一市一町五ケ村合併協議会
基本条項を飯田市に示し合併を申し込む

726村議会協議会

727本村代表議会代表は松尾村を訪ね合併につき懇談

731一市一町五ケ村合併協議会
飯田市は基本条項を全部認承したが、突然鼎町が不参加を声明したので、一市一町五ケ村案は遂に崩れた
○場面転回

81○飯田市より来村、一市十ケ村合併案を提唱
○村議会協議会
○川路村より村長議員来村

82○村代表議会代表は松尾村を訪ね、一市十ケ村合併に参加を要望す
○村合併対策研究会
一市十ケ村合併案を認む

83一市十ケ村合併協議会（飯田市の招集）

86○村議会協議会
○本村合併対策委員会
○松尾村より来村、一市十ケ村合併案に参加の旨を報告し、併せて下久堅村を参加させてほしいと要望

88五部落懇談会
大方の村民の賛成を得た
（八月九日現在）

説論

営農資金に思う

一昨年の大凶作の痛手も癒え切らないうちに又しても本年は大霜害を受け、このところ農家は散々の体である。

近いうちに営農資金の貸付額が決定するとの事であるが、借入希望者は百六十名ありその額も約三百七十万円ときく、おそらく四分の一程度に減額貸付されると云うがそれにしても大きな金額であり、その運用に当り単に借入者のみでなく農政的な見地からしても無関心たり得ないであろう。

そも〳〵営農資金とは読んで字の如く農業生産の資金という事であり、生産資金に使用する事を強調してその貸付条件とするのであるが、おゝよその農家が家計と経営が分離していないため、むしろ農家の借金は生活費に窮してなされるという消費金融的性格が強いのである。

かりにそれが肥料代、農具代飼料代等の生産資金として当てられたにせよ現在以上の生産規模に拡大される事はなく、かえって現在以下にその規模が縮少する事を防ぐが勢いっぱいである。

この事は過去の苦い経験から私達は良く承知しているところである。こうした宿命的な経営形態の中で借金がいささかなりとも生産力を高め、農業所得を増加せしめる為にはその運用がどうなされなければならないかを、農家個々の現実に当てはめ計画が立てられるべきである。

一昨年の場合も資金貸出しが農民には旱天の慈雨の如く感じられたのであるが、生産力増強のための恒久的な計画がなされなかったが故に、現在に至って返済が大きな負担となって農家に絡まりついている。

こういう借金の性格上どうしても返済はいつも生活費を切下げ、食うや食わずの活しの中から余剰を出すか、働けるだけ働いて兼業所得に依るいさゝかの余剰を当てる以外に、純粋に農業所得の中からそれを生み出す事が困難である。こうした観点から営農資金を考えるとき必ずしも長期低利という事が農家のためにプラスするものでもないのではないだろうか。

当局に於てもかなり積極的に近代的な産業資本として今回の借金が生かされる様、親切な指導を望んでやまない。

土地分類調査行わる

本村が標本地帯となり

本村の桐林区のうち前林大平、丸山、御所山、前の原の畑作地帯の約十二町歩が、今度新農村建設事業の一環として国土調査法に規定する、土地分類調査の作業規定準則を制定するための標本調査地帯として選定された。

これはこの地帯の地形、地質、土壌について農林省の技術者による化学的分析の調査と、過去の栽培作物の収穫量とによって土地の実体を究明し、適地適作を指向して土地利用の高度化を図り、それが農業振興の基礎資料となるものゝごとくである。

現地調査は八月二十日頃から九月上旬の秋蚕最盛期前に終る様計画されており、該当地域を耕作する方には調査票が配布される。なお四Hクラブ員が此の仕事に協力する事となっている。

春蚕 掃立量 六、九二〇瓦
組合集繭量 五、七四四〆

十五年ぶりに故郷へ

中共より中島氏帰る

写眞は駅頭で挨拶する中島氏

去る七月六日桐林区出身、中島宗一氏が中共より戦犯を釈放され、無事になつかしの生家へ十五年ぶりに帰られた。

氏は昭和四年に渡満、結婚のため十一年に一度帰郷されたが警察官として勤務され、二十年九月に戦犯としてソ連に抑留、その後中共に移され今回の中共政府の計らいによる不記訴で帰されたものである。

「長い間お世話様になっなが無事に帰る事が出来た。戦争は私達に幸福をもたらさなかった。今後は平和のために努力したい」と時又駅に出迎えのため集まった村民に元気にあいさつされた。

治退虫毛松が科民駄区被害十町歩に及ぶ

七月二十三・四の両日駄科区では区民総出で大平、臼井地籍に大発生した松毛虫を捕殺した。

すでに退治の時期が遅れたため、薬剤の効果がうすく、棒等でたゝき落した虫、繭を土中に埋めた。被害面積は約十町歩に及び、今後の対策を同区では練っているが、九月頃卵からかえった幼虫にBHC等を撒布するか、来春早々にやはり薬剤の撒布による駆除を計画している。【写真は松毛虫を土に埋める区民】

旅行・キャンプを実施

学校の校外運動

小中学校では夏休みに入り、校外での運動について計画どおり、さいわい好天に恵まれて実施、それ〴〵成果を上げた。

小学校

学年	目的地	期日	備考
五年生	上諏訪	七、三〇	旅行準備
六年生	明神原	七、二九	一泊

中学校

一年生	高尾台	七、二〇	一泊
二年生	大平	七、一九	一泊
三年生	西駒	七、二六	一泊

青年学園

全員	霧ケ峰	八、一	一泊

体育だより

○中部支会野球会で龍丘善戦
去る八月五日龍丘学校庭で野球会を開催し、わが龍丘チームは第一回戦で伊賀良チームを十二対八で破り、第二回戦で松尾チームと対戦し、クロスゲームで松尾を苦しめたが四対三で惜敗した。当日の龍丘チームの各選手の活躍振りは美事なものであった。

○常会野球決勝戦
来る八月十五日に常会野球決勝戦が学校庭に於て、午前八時から開始される。

○中部支会陸上競技会
来る九月二日松尾学校庭にて。

戸籍の窓

【出生】三月分

子の氏名	性別	父の名	部落名
岩崎 文公	男	伝一	駄科
中島 敏彦	〃	寿文	桐林
折金千加子	女	利治	駄科
関島 良子	〃	毅	〃
折金 栄子	〃	荘三	〃
塩沢 賢治	男	正敏	桐林
牧内 陽子	女	一三	上川路
伊藤 春美	〃	公	時又
小木 曽俊	男	昭雄	〃
久保田たか子	女	千秋	駄科
中島 重幸	男	達雄	桐林
久保田幸子	女	茂子	駄科
沢柳 実也	男	昇	〃
宮田 繁子	女	国男	時又
原 美津子	〃	義人	桐林
中島 英市	男	忠治	〃
塩沢 甲夫		桐林	
前沢む津子		三穂村より	
久保田幸子		駄科	
倉沢 操		飯島町へ	
林 ミチエ		桐林	
長谷部昭人		川路村へ	
窪田 つや		上川路	
長谷部昭男		川路村へ	
代田 勇		駄科	
伊藤美江子		千代村より	
今村 睦子		時又	
田中 孝		飯田市へ	
小室喜代子		上川路	
田村 甚作		東京都へ	
代田 大治		駄科	
村上 てい		東京都より	
下平かなゑ		桐林	
恩田 隆志		松尾村へ	

【出生】四月分

子の氏名	性別	父の名	部落名
高島 洋一	男	博	桐林
関島 隆志	〃	文男	駄科
下平 友子	女	三郎	〃
中島 光利	男	春郎	〃
久保田智子	女	龍明	〃
下平 稔	男	恒二	時又
上松 義招	〃	孝善	駄科
市瀬富士子	女	英夫	〃

【死亡】

氏名	性別	年令	部落名
伊原 早苗	女	六五才	時又
林 勝司	男	四七	桐林
平沢志げ子	女	一二	時又
伊藤 春美	〃	〇	時又

【婚姻】

倉沢 三男		時又	
島津 幸子		新潟県より	
下井田 茂		長野原	
伊藤 千春		上伊那より	
今村 信郎		長野原	
林 みち子		桐林より	
佐々木昭三		長野原	
林 邦子		東京都へ	
久保田ゆき子		駄科	
木下 敏		喬木村へ	
関島 正美		駄科	
田切 徳子		市田村より	
牧内 文恵		上川路	
小林 祥吾		山本村へ	
代田 宗久		駄科	
賀沢美津枝		千葉県へ	
塚平 正広		上川路	
南林美奈子		上伊那より	
林 一一		桐林	
平沢 しげ		下久堅村より	
中島 一成		時又	
杉浦てつ子		名古屋より	

【出生】五月分

子の氏名	性別	父の名	部落名
牧島 妙子	女	三郎	駄科
山村 章一	男	実	時又
小池 洋子	女	忠志	長野原
中平 昇明	男	甲子男	駄科
小林香代子	女	勝人	長野原
北沢 政則	男	正志	長野原
塩沢 潔	男	喜博	駄科
横井 睦子	女	清	上川路
原田 忠仁	男	典彦	駄科

【婚姻】

代田 久郎		駄科	
吉村 律		下条村より	
木下 秋彦		時又	
細田 玲子		駒ケ根市より	
玉木 淑雄		時又	
大蔵はるゑ		愛知県より	
木下 修次		駄科	
前田 幸子		名古屋市より	
伊東 宗雄		駄科	
宮下 千秋		喬木村より	
平沢 福一		駄科	
代田 今栄		下久堅村より	

【死亡】

氏名	性別	年令	部落名
下平 常一	男	七六	駄科
寺沢富七郎	男	六九	〃

【出生】六月分

子の氏名	性別	父の名	部落名
原 申治	男	丙三	桐林
今村富美子	女	大	時又
中島 義秋	男	千秋	桐林
中島 恵子	女	清夫	〃
中島 一枝	女	一成	時又
中島 光子	女	章	桐林
小室 順子	女	和巳	上川路
木下 能文	男	靖巳	駄科
伊原 利博	男	計介	時又

【婚姻】

牧島 喜美		駄科より	
北原 正治		飯田市へ	

【死亡】

氏名	性別	年令	部落名
中田 鐘一	男	七七	桐林

雑畔拾話

上水道をほしいという事は村民の宿願でもある。

たま〳〵数軒相寄っての計画をちょい〳〵聞くが、それは経済的自然的条件に恵まれた方々が多い様に見受ける。ほんとうにほしい者がいかに多く又、出来ないという事実を共同の力でなんとか解決され得ないものだろうか。

おそらく現在では灌漑用水と飲用水との区別ははつきりつけるべきであり、過去に私達は伝染病の流行ではっきりこの事実を知らされている。

時又ではついに全戸施設の大事業にとりかゝった。こうした先進地の事例を参考に各部落とも、本気に考えてみたらどうであろう。

合併をしたら新しい村で造って呉れるかもしれない。黒川開発で大水道が引かれるかもしれない、等と当てにならない事を考えて日を送るのも此の際どんなものだろう？

年々少くなるおなかの虫

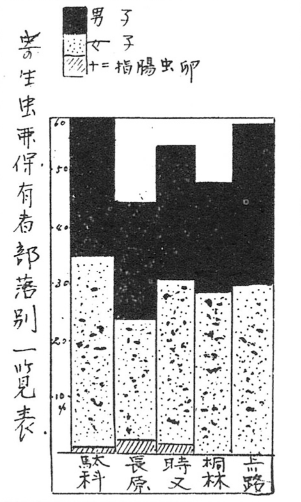
国保で村内一斉検便

国保では毎年小中学校の生徒に無料検便をし、寄生虫の卵保有者には薬を与えて駆除を行って来たがその結果、消化器寄生虫のいる人が三十五%位になり関係者を喜ばせている。

今年は是非一般の村民を対象に検査を実施すべく予算化し、先頃実施したところ、予想外に希望者があり一般に寄生虫に対する関心の高い事がうかゞわれた。

成績は次表の如くであるが、昭和二十四年の九十%をはるかに下廻っている。

十二指腸虫卵も僅か二%程度であったが家族感染をするので通知を受けた人は必ず駆除をする様望んでおり、各部落共女性が卵保有が多かったので食物を調理する上で特に注意されたいと国保では呼びかけている。



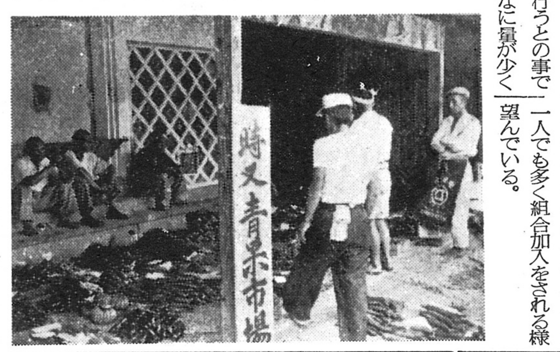
一日の売上一万七千円

青物市場の盛況

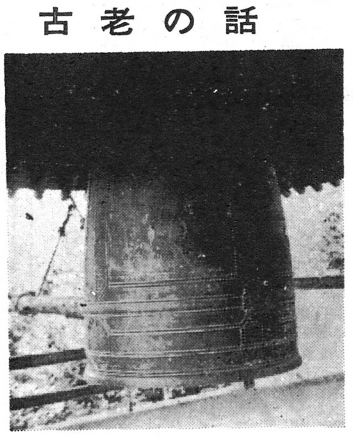
此の程時又支所に青果物の「セリ市場」が開設されたこれは関係者長年の懸案に依るもので、農協、蔬菜出荷組合、業者の提携に依って結成され、一日の売上が約一万六、七千円になり出荷点数二百余出荷者五十余名を数えている。

開市は当分のうち奇数日で午前六時より七時半までの受入で行うとの事であり、だれでもどんなに量が少くても気安く持ちこめるところに此の市の特ちょうがある。遠くは三州小坂井から西瓜やピーマン、マクワ等が送られて来るとのことである。

なおこの市を龍峡地区を地盤として今後大きく発展させるべく七月二十六日に龍丘、川路、龍江の三村農民が集まって龍峡蔬菜組合を設立し組合長に下平一氏副に下平逸氏を選出し一人でも多く組合加入をされる様望んでいる。



古老の話



写眞は長石寺の鐘

長石寺の梵鐘

伊藤祐哉

時は安政五年三月七日飯田藩主堀公より梵鐘差し出すべしと命令あり。当地七ケ寺龍翔寺、法蔵寺、運松寺、神宮寺、長石寺、鶏足院如来寺なり。昔各家庭に時を報ずる小梵鐘が必要であった。供出の後は誠に不都合で、時の住職や惣代が協議した結果、上川路開善寺に鐘のはづしが有ったのを譲り受けて時を報じて居た。併し音がよくないので住職岩堀智道さん信徒惣代と協議して、一般の喜捨を願い新調する事に一決した。時は明治二十二年四月五日であった。伊勢桑名の人坪内善平外三名同月二十三日鐘鋳の式挙行と決した。記憶をたどる其前日私は老母に連れられ見に行った。門さきで鐘を横にして中で強い火を焚き、住職や観集人が御念仏の声諸共に打ちこわした。境内の松の大木の傍へ二間四方深さ五尺許りの穴を作り其中へるつぼをすえ付け鐘楼堂の下にたたらを造り、其天井から紅白の布がさげて有りました。

愈々当日になると前日こわしたかねや青銅などをるつぼの中へ入れ十四、五歳位の人が紅白の布へ取り付いて歌い乍ら足で調子取るとたたらの両端が上ったり下ったりする度毎にるつぼの下へ風が行く炎が高く昇る。幸い此の日は晴天であった。時又では弘法様の屋根から屏の屋根へ高座を造り見物する。各家の来客は勿論近郷近在遠方より来詣旁見物人は雲の如く集まり煙の如くむらがり広き、境内も立錐の余地なく、住職は本尊様に向って御祈りをする。見物人はかんざしやかねの鏡を念仏の声と共に雨霰とるつぼ目掛けて投げ込む。鋳物師は鉢巻黒股引法被姿で真赤い顔をして立ち昇る炎を眺めて居る。今考えると勇壮で魂が鐘に籠って居る様な気がする。高い木に登った見物人は降りる事も出来ず困ったと云う話もあった。其うちに見物最中高座の中程が落ち掛った。私は母の手に縋がって大騒ぎをした。幸怪我人はなかった其内に見斗らってとけたかねを鋳形へつぎ込んだ。音を立てては入った。其後の事は覚えがない。私はそれから毎日御寺へ遊びに行くと鋳物師が寄附者の名を鐘へ堀り込んで居た。

鐘楼堂も新築が出来て鐘の撞き初めをした。音はいんくとして。余いんは天龍川の瀬音と共に今田川路南原辺迄聞え村中の人々も望みがかない、日中の鐘の音を聞くが楽みであった。国学者故下田直樹翁は一詩を賦して寺に寄せた。月落鴉鳴散法燈夜深巨閣僧清梵と。爾来星移者変わり昭和十七年十月十二日悲しいかな又々供出の命を受けた。以来数年間淋しき鐘楼堂を眺めて其感を深くした。人は運命の波に乗った。感傷を立ち切る事はむづかしい。是れではいかぬと現在岩堀俊道師信徒惣代外有志の人々の喜捨により、北原三佳先生に御依頼して、御陰様に立派なる鐘が出来た。最近の事で時は昭和二十三年九月二十一日でした。歴史は語る六十年余り変遷すべて夢の如く。日に三度年に一度の除夜の鐘の音も、昔からの事を追懐して止まないのである。

＝部長放談＝

雑感

産業部長　今村長穂

今迄皆様の掲載して下さる原稿を苦もなしに読ませて戴いておりましたが、其の中に部長放談の順番が廻って来て一寸狼狽。熱い土用の炎天に猪の出そうな草、アカザの木に馬鈴薯が成ったんではなく、こいだ拍子に附近の薯が一緒に付いて来たのだ。こんな惰農振りでは何も自慢する事とてないが、草と戦い疲れて寝床に入ってみたものゝメ切日も間近い原稿の事が矢張り気になる。と言ってこれと言って別に書く事もないので去る四月の神稲、山吹両村の果樹先進地視察の様子を少し書かせて戴く。

廿八日産業部主催にて部員、農業委員の方達と八時半農協出発自転車にて弁天橋を経て龍東線にペタルを踏んだ。農協へ到着したのが十時頃、丁度此の日は農協の総会日で多忙の所でした果樹関係の今村さん（本村出身）がにこ〱して出迎えて下さる先ず視察前に此の村の概要を説明して貰う。水田二百町歩、果樹園五十町歩、酪農五石、和牛三百頭、戸数九百八十戸、平均反別一戸当り五反で、此の処コンニャクの栽培が非常に殖えて現金収入の大きな役割を占めて居るそうな。一通りの説明を聞き早速新植果樹園を見せて戴く急な坂道を上ると平な原に梨の新植地が見えた。現在はまだ桑の間や普通畑に正しい間隔を保って見渡す限り一直線に植えた許りの幼木が見られた。又山添の段丘にはリンゴが沢山植えてあると説明を加えて呉れた。それが一部分しか見られなかったのは残念であった。

此処二、三年間に共同防除にする設計も出来ていた。農民が此れだけ思い切った計画に良く協力出来たものだと全く敬服しました。此の方面の指導者が良かったものか、又村人が耕地の狭い関係上反収の上るものをと言う欲求から転換したものか、此れだけの経営改革が成功しつゝある神稲村の発展は大したものだと思いました。此の村を午前に終え午後は山吹村の増野組合の共同防除の施設を視察、此処の規模は県下でも稀に見る設備の様です。一日に百五十石の薬液を十五、六人で六町歩の消毒が大体一日半位で完了するとの事、大した設備に驚きました。

此処の土質は非常に悪く、今でも大きな石がごろ〱している所で此んな立派な果樹園がよく出来たものだと思う。果樹に転換した動機を聞きましたら土地が悪く養蚕では反当せいぐ十二、三〆此れではとても駄目だと今の組合長さんが廿年程前に見切りを付けて始めたのが、もとで今となっては非常に良かったとの事です。

指導者は主として組合長の息子で千葉園大を出た人で共同防除で経営すれば何も知らないおっさんが最高の頭で最高の技術（施肥、剪定、消毒其の他の管理）で経営が出来又出来上った製品が着色、形質等が上質で他の出荷地より一箱百円位高く売れる様です。本村でも昨年あたりから大分植えられていますが将来の事も考えてどうしても共同防除の出来得る体制をとって行かなければならないのではないでしょうか。

養蚕も本村としてはどうしても見離す事は出来ないが各人今迄と同じ経営を繰返して行くなれば何時迄たっても我々の生活の向上はあまり望めんのではないのですか、現状を保って行くなれば兎も角将来発展するには反収の上る特用作物で結構、又果樹で良し、果樹も現在我が国の消費高は西洋の五分一でまだ〱将来性はある様です。

果樹と養蚕相反するものであるが故に、如何にして果樹をふやしたらよいか、現在農業委員会果樹推進委員会等で研究して下さっておりますが、将来本村の園芸はどの様に発展するか、？大きな期待をかけております。安定した永続的なものへ充分な見通をきかせて発展させたいものである。

母のよろこび

（「丘の白菊」第二号より抜粋）　久保田いち

澄みきった秋晴れのある日、郵便屋さんが家の方へ向って来る。工場の娘から便りが来たかなと思うと、今まで頭の中にあったわが子の顔が一度に大きくなって浮んで来る。

郵便屋さんから手紙を受けとったが、見てしまうのは、ちょっと惜しいような気もする。何か変った事でもなければよいがと思う不安が入りまじった気持で封を切った。何時もみなれた字で、今度の綿紡十社のストのようすや、身のまわりにあったことなど書いた後に、「お母さん最近私にうれしい事がありましたからお知らせ致しますそれはある雑誌に短歌を出したところ三首共特選にはいり、選者の歌人からおほめのことばにあづかり大変うれしかったから、お母さんにも喜んで頂きましょう。以下その歌として

○久々に縞の着物もなつかしく母と語りつあぜ道を行く

○娘（こ）ら二人ようやく大きくなりたりと父の墓前に母は告げ居る

○我よりも背丈のびたる妹に母は低き靴を出してあたえぬ」

とあるのを読んだ時、目の中がかすんで一瞬何も見なくなった。

頭では幾月かまえの事を思い出していた。それは娘が工場から帰って来て久しぶりに親子がそろったある日、お墓参りに行った時のことである。子供達はそれぐ草をつんだり、遠くを眺めたりしていた時、私は夫の墓に花をさしながら、なかば一人ごとのように半分は冗談のように

「お父さんみて下さいよ、子供達はこんなに大きくなりました」となんの気もなく小声でつぶやすた事をはっきり思い出した。

そして妹より背の低い姉に対する私のそれとない心づかいも、その時その折りに子は心の中に受けとっていてくれたのかと思うと、私はほのぐと心のあたゝまる思いがいたしました。

○けがれなき娘ごころにこだまする母のおもいはおろそかならじ

○まづしくも心ゆたかに伸び行けあ子よ朝（あした）夕（ゆうべ）に母は祈るに

駅頭の感

（第二十二回）　下平芳太郎

次回のバトンを斉藤寿氏に渡す

よそから暑中伺いのはがきを貰っても其返事さえろくろく書けない我が輩にバトンを渡すなんて罪なことは有りません。何かたねはないかなあ―苦吟数日、こないだ七月七日午前九時何分かの電車でお隣りの中島宗一君が中共から釈放されて十何年ぶりで帰ってこられました我輩もお隣りの義理で時又駅頭まで出迎えに行きました林村長の慰労歓迎の挨拶のあと、やがて宗一君の答辞が始まりました。曰、私は中国の戦犯者であります此の度中共政府の寛大なおとり計いと皆々様の容易ならぬ御尽力で十一年ぶりで郷里に帰りなつかしい妻子にも再会の機を得まして実に感慨無量であります。思えば戦争ほどおそろしい、いまわしい事は有りません。私は永い間の補虜生活を体験して平和の重要性を知りました云々、大体以上の様な意味のあいさつをぽつりぽつりとしかも涙をまじえての話でした私も聞いて居て思わず胸がいたくなってまいりました。こゝで漸く執筆のヒントを得たような気がしてペンをとりましたが想をまとめる段になると又日頃の怠りのバチで一向はかどりません。駄科や時又の婦人会の方々は手に手に筆を持って作文集を作られ既に二集も三集も出来ていらっしゃると云うのに私は昔、先生をしたと云うのに自分の不甲斐なさをくやしくてたまりませんでした。私は思いましたはなしの価値と云うものは弁舌の良悪しではない、其人の衷心からほとばしり出た言葉であるなと思いました宗一君のなされた挨拶も他人のそうした場合にする挨拶も辞の上ではあまり相違は無いと思うがたゞ宗一君にあの体験が無かったら、あれほど人心を打つ力は出てこないだろうと思いました。

又宗一君は平和という事を強調せられましたが、これも中々実行はむづかしい事です。何せい相手と言葉の上で争っているうちはまだよいが、ゲンコツが飛んだり刃物が舞うようになると、そろくあぶなくなる。徒党をくんだり、集団的になるといよく大事になる国際間に始まれば戦争という。日本人は戦争に名をかりて彼の地では随分乱暴を働いたらしい。だから中国人にとっては言わば仇敵である。汝の敵を愛するとか、恨みにむくゆるに徳をもってするとか中共の要人にはどこか東洋的のところがある。日本人は外国の捕虜をつれて来て、佐久間ダムのあぶない労役につかった。あちらでは補虜を労役などにはつかわないばかりかこんどの帰国に際し、お国へ帰れば再び来る事はあるまいからよく見物して行けと、汽車に乗せて北支の各地を見学させてくれたという。中京人と云えば、私は毛沢東とか周恩来とか季徳善婦人とかほんの二、三のおや玉株より外名前も知りませんが、よく五億の民衆を統一して実に立派な声価を挙げていると云う。是れを吾国の大臣方や議員さん方が乱闘さわぎ迄おっ始めて何が何だかわからない。国柄とはなんたる大きな相違でしょう。

自分の未熟を申しあげてリレーのおわびをする構想が立ちぎえとなり、大臣方のわる口に筆がそれて申わけありません。ではこゝらで御勘べんを願います。

時又のお盆

○盆おどり

八月十四・十五・十六日にわたり毎夜恒例の盆踊り。殊に十六日の仮装競技会が期待される。

○燈籠流し

恒例の呼物。八月二十三日夜空の花火と水上の花火をめぐって、かぞえきれない川面の燈籠流し。美観。混雑する観客。

林さん無言の帰還

ハバロフスクの病院で死亡さる

桐林の林光男氏実弟林勝司氏の遺骨が去る七月六日に帰られ、二十六日に葬儀が行われた。

勝司氏は昭和十三年十月渡満、信濃村開拓団に入り、現地で召集、ソ連ハバロフスク地区の病院で二十年五月十七日に病気で死亡されたものである。

天竜峡夏季大学

主催　成蹊大学・長野県教育委員会・川路村教育委員会

後援　龍江・龍丘・三穂・千代各村教育委員会

日時　八月十八日より二十三日迄　毎夕六時半より九時まで

会場　天龍峡公民館

受講料　無料（課目選択自由）

日程

一八（土）最近の経済情勢　成蹊大学　野田信夫

一九（日）現代人と精神病理　東京医科大学島崎敏樹

人生問題　評論家　串田孫一

二〇（月）中世の日本　成蹊大学　小島鉦作

未定　評論家　望月百合子

二一（火）最近の世界情勢　共同通信社　水野政直

二二（水）美術・ルネッサンス　千葉大学　三輪福松

二三（木）民衆演劇に就て　早稲田大学　印南高一

全期出席者には終了証書を交付する。